

# 農地の放射線量 早く測定

農研機構など  
装置を開発

農研機構と放射線測定  
機器メーカーのクリアパ  
ルス(東京・大田)は7  
日までに、農地の放射線  
量を迅速に測る装置を開  
発したと発表した。装置  
が高感度になったことで  
測定時間を大幅に短縮し  
た。無線で動く車などに

搭載し、遠隔操作で水田  
や畑を移動させるだけで  
除染前後の空間線量率を  
簡単に把握できる。

農研機構のグループは  
この装置を使って、福島  
県の南相馬市と飯館村で  
測定した。飯館村の大規  
模水田(約30㍏)では、

装置はガンマ線の検出  
器や高度計、全球測位  
システム(GPS)受信  
機などで構成し、全体の  
重量は5キ程度。大型の  
無線で動く車などに積

検出器を採用しており、  
従来の携帯用測定器より  
感度を約30倍に高めた。

無線で動く車に装置を積

み、毎秒50キ〜1キの速  
度で空間線量率を調べた  
ところ、約30分で測定で  
きた。空間線量率は地面  
からの高さが30キから1  
キ程度であれば測れる。  
トラクターや無人ヘリ  
コプター、気球などに搭  
載することも可能。除染  
前後の放射性物質の濃度  
分布を地図にして、一目  
で把握できるという。